

2015年9月12日(土) - 13日(日)

AER(アエル)アトリウム2階 入場無料・事前申込不要

東日本大震災から4年半の歳月が流れ、記憶の風化が懸念される一方、近年多発する災害への関心が高まりつつあります。市民一人ひとりが防災を自分のこととして考え行動していくことが、今後一層求められていきます。

そのためには確かな情報と知識が必要であり、震災からの教訓を伝え続けなければならない意味が、ここにあると考えています。

宮城教育大学の防災「公開集中講座」開催は、今年度で3回目となります。AER(アエル)という市民に開かれた場で、教育大学としての知見とネットワークを生かし、さまざまな角度から情報を提供する講座を聞いてまいりました。

5年の節目にあたる今年度は、ステークホルダー(防災関係者)としてそれぞれの役割を担いつつ、復興への取組を実践している方々を講師としてお招きしました。貴重な学びの機会となることをお約束いたします。

復興への取組は、長期的に継続していくものでなければなりません。また、地域コミュニティが活性化するなかで、そこに住む人々が安心して、生きがいをもって暮らしている社会を目指さなければなりません。仮設住宅から復興住宅へと、新しいコミュニティが形成されつつあるいま、復興への新たな段階として、防災を核とした地域づくりの試みが始まっています。宮城教育大学は、未来を担う子どもたちを育む教員の養成、そして、市民協働による教育復興の推進を自らの役割ととらえ、世界を注視する「より良い復興(Build Back Better)」を、市民の皆様とともに実現していきたいと考えています。

第3回公開集中講座
宮城教育大学

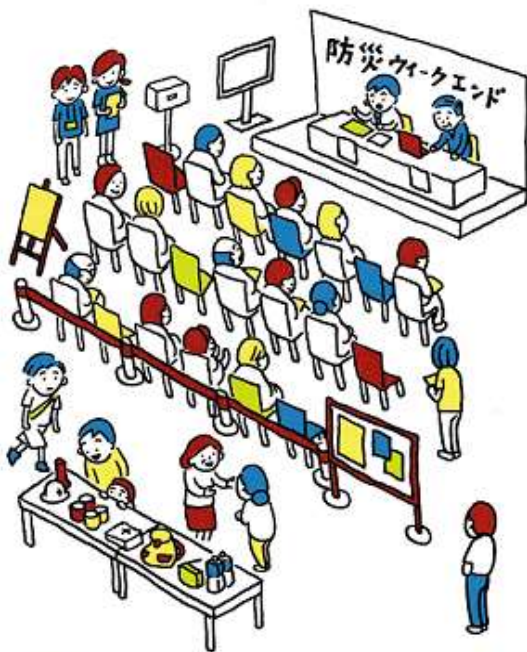
防災

アエルで学ぼう

ウィークエンド

主催＝国立大学法人宮城教育大学「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」実行委員会

後援(予定)＝宮城県教育委員会、仙台市教育委員会、仙台市PTA協議会、河北新報社、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台総局



半年ぶりの仙台

宮城教育大学教育復興支援センターが毎年開催している公開集中講座に参加してきた。9月11日は東日本大震災からちょうど4年半の節目に当たり様々なイベント開催もあって、仙台駅前の会場は結構な賑わいを見せていた。公開講座は産官学に報道機関や市民団体の協力も得て14題の発表や報告が行われ、東日本大震災とこの3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議の教訓と今後に残された課題についての真剣な議論が行われた。



仙台駅前

9月12日(土)

プログラム(1)

11:00-11:20
星上一幸・宮城教育大学 学長
ニードル・漢字コンビ

オープニングセレモニー

プログラム(2)

11:20-12:05
田嶋登人・宮城教育大学 教授
教育復興支援センター 事務

防災拠点としての学校

災害時、学校は地域の「防災拠点」になります。これは、東日本大震災の経験からわかった事実です。あの災害時に学校が防災拠点としてどのような役割を果たしたのか、今後の大規模災害に対して、学校と地域はどのように育えるべきかを考えます。

プログラム(3)

12:10-12:55
佐藤崇徳子・仙台市PTA協議会 会長

仙台市PTA協議会の震災後の取組

仙台市PTA協議会として震災後の活動をまとめたDVDを紹介しながら、現在取り組んでいること、今後の課題などをお話します。

プログラム(4)

13:00-13:45
今野隆一・仙台市教育局学校教育課教育指導課 主任指導主事

仙台市の新たな防災教育

3.11からの復興

国連防災世界会議への参加

そして未来へ

東日本大震災から4年を経た2015年3月、市内の小中学生たちが第3回国連防災世界会議の場で世界に向かって、支援に対する感謝の気持ちと防災学習の成果を発信しました。その内容と、今後の防災教育のあり方について説明します。

プログラム(5)

13:50-14:35
赤坂安・仙台市教育局学校教育課特別支援教育課 課長

災害時における 配慮を要する人たちへの理解と支援

仙台市教育委員会では、震災時とその直後における障がい児の状況把握、ケアの内容検討を目的に、2011年5月、学校や保護者にアンケートを実施し、その結果を踏まえながら、障がい児・者とその家族に必要な支援を構築しています。本講座ではその内容を紹介します。

プログラム(6)

14:40-15:25
藤原和文・東京工業大学 名誉教授

地震に対する都市の脆弱性

地震防災という観点からいろいろな都市を見てみると、それぞれの都市で、特有の長所と短所が際立っているように思われます。また、発生する地震の「くせ」によって、この長所と短所がいつも同じように発現するわけではないのが大震災争かいです。本講座では、地震に対する都市の脆弱性（弱さ・もろさ）について、仙台と東京を比較しながら考えてみます。

プログラム(7)

15:30-16:30
岡部清人・センダイエムエフエム放送株式会社取締役専務部長
宮城県防災推進員

防災エンショー

楽しく科学・伝える防災

(防災+サイエンス)

防災に役立つことについて、科学実験を交えてお話します。子どもから大人まで、楽しみながら学べる防災教育の新しい手法として注目されています。

プログラム(8)

10:00-10:45
小宮孝子・NPO法人FOR YOUにこにこの会 理事長

震災の教訓を未来へ活かす 「新たな防災・減災」

市民協働により開発された「仙台発せなえゲーム」と仙台市教育委員会企画アップロード事業の助成を受け開発した「防災・減災学習プログラム」の共有と、「自助・共助・連携」の視点から新たな防災意識を学びます。

プログラム(9)

10:50-11:20
三浦秀之・東松島市教育委員会学校教育課 指導主事

東松島市の防災の取組

震災後、東松島市が取り組んできた防災について、東日本大震災における被災の概要および対応、復興に向けた防災の取組、学校教育における防災教育の推進——の3つの観点から説明します。

プログラム(10)

11:25-11:55
木村利夫・東松島市立塩釜未来中学校 防災担当教諭

漫画で学ぼう! とっさのひとこと 防災教育教材「とっさのひとこと」 の実践事例

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとNPO法人プラス・アーツにより開発された防災教育教材「とっさのひとこと」。3コマ漫画で災害時の状況を再現し、3コマ目の空白の吹き出しに当てはまるセリフを考える。生徒はどんなセリフを考えたでしょう。会場の皆さんも、一緒に考えてみませんか。

プログラム(11)

12:00-12:40
上原知利・宮城県石巻高等学校 教諭
佐藤淳志・宮城県石巻高等学校 教諭

石巻西高の防災教育 ～防災学習を通じた生きる力の醸成

【上映】震災直後から続けてきた防災教育・防災交流によって、「石巻西高」と言えば防災教育」と言われるほどになりました。活動の実態と、活動を西高の伝統行事として継続していくための取組を紹介します。

【体験】生徒が後輩に代わり伝え、生徒の自主性、積極性を生かす——。ボランティア活動への参加者が倍増する契機にもなった石巻西高における「ボランティアスタッフ登録制」の取組を紹介します。

9月13日(日)

プログラム(12)

12:45-13:35
宮城教育大学 学生

学習支援ボランティア活動報告/ 被災地視察研修企画への思い

【学習支援ボランティア活動報告】夏休み期間中や休日などを利用して、被災地の子どもたちの「笑顔を取り戻す」ために、「できる人が、できる時期に、できることを」を基本に行っている学習支援、学生にとっても、能力・指導技術の向上と自己成長につながっている活動を紹介します。

【被災地視察研修企画への思い】被災地の視察研修をどんな思いで企画したが、参加した学生はほとんどことを思ったのが、南相馬市と気仙沼市の視察研修の様子を映像でとりながら伝えます。

プログラム(13)

13:40-14:25
森北川崎・宮城県立南相馬小学校 校長
南相馬市立平川小学校 校長

あの時、学校で起こったこと いまあらためて自然災害の想定と 防災について考える

東日本大震災における戸倉小学校の避難の実態をふり返り、防災について考えたいと思います。とりわけ、自然災害には「想定外」が付きまわりますが、この「想定外」にあらかじめ備えることは可能なのか、「想定外」の災害をどう考えればよいかを検討し、防災に必要なことを考えます。

プログラム(14)

14:30-15:15
宮片恵美子・NPO法人イコールネット仙台 代表理事

災害に強い地域づくりのために 防災・減災に女性の力を生かす

震災発生以降、避難所・仮設住宅で被災女性への支援活動や調査活動に取り組んできました。その結果、地域防災の担い手として活動する女性防災リーダーの必要性を感じ、その育成に取り組んでいます。これまでの経緯と成果について報告します。

プログラム(15)

15:20-16:10
武田真一・河北新報社編集委員会 副委員長
柳澤英樹・仙台市まちづくり政策局まちづくり推進担当部長
野澤令希・宮城教育大学教育復興支援センター 副センター長

最議：未来の仙台のまちづくりを目指して

東日本大震災直後からメディアの立場で防災発信の取組をリードしてきた武田氏と、津波被害調査員として第3回国連防災世界会議の企画・運営に携わった柳澤氏が、仙台の未来のまちづくりについて、胸に秘めた思いをぶつけ合いながら、熱く語ります。みやぎ防災・減災円卓会議に出席している、宮城教育大学教育復興支援センター 野澤副センター長の進行役を務めます。

プログラム(16)

16:10-16:30
中井浩・宮城教育大学 連携推進理事・副学長
教育復興支援センター 長
熊倉大輝・宮城教育大学アカバカラサークル 会長(かみで)

クローキングセレモニー



第3回公開集中講座 宮城教育大学 『防災ウィークエンド』 注目の話題

☆宮城教育大学の田端健人教授は「防災拠点としての学校」と題して、これまで丹念に進めてこられた3.11津波災害の被災校に対する聞き取り調査の結果に基づきながら、津波被災地域における避難行動の成否に学校の存在が大きく関わっていたことを、仙台市立荒浜小学校、山元町立中浜小学校、南三陸町立戸倉小学校の事例を用いて紹介された。荒浜小学校は地域で唯一の4階建て鉄筋コンクリート建物で、他に避難場所を選択する余地がなく、避難訓練も行われていたために避難が円滑に行われたこと、中浜小学校では校長先生の判断で遠方への避難よりも学校校舎への残留を決断され、結果的にはそれが功を奏して犠牲者を出さずに済んだこと、戸倉小学校の場合には逆に、3階建て校舎が津波で完全に水没しており、近くの高台への避難によって危機を脱したこと、などはいずれも成功事例のように考えられている。例えば、荒浜小学校では320人が校舎に避難して助かっているが、その当時、荒浜地区に居られたはずの2,000人もの人々がどのように、またどこに避難されたのかについては検証されていない。中浜小学校では、あと津波が1メートル高かったら、果たしてどうなっていただろうか。戸倉小学校の場合には、最初の避難地である宇津野高台は津波に襲われ、五十鈴神社へ後退することで辛うじて助かっているが、その時避難場所は陸の孤島となっていたはずである。これらの経験を今後の防災対策に有効に活かすためには様々な視点からの検証が必要であろうと思われた。

☆宮城県防災指導員の阿部清人氏の『防災エンスショー』は、楽しい科学実験で子どもたちに大人気であった。地震との関連では、糸の長さの違う振り子を用いて固有周期の違いを実感する振動実験と、ピンポン玉が砂地盤から浮き上がる液状化の実験が印象に残った。実験はいずれも大成功であったが、終わってから阿部氏とお話する機会があったので、液状化の実験の場合には、最初に、水分を含まない砂地盤の場合に液状化が発生しないことを確認すべきで、そうすることによって水と液状化の関係がより理解し易くなるのではないかとコメントをさせて頂いた。液状化させない実験の方が遥かに難しいのではないかと云うことで意見は一致したが、果たして次回はどうのような実験が見られるであろうか。

☆宮城教育大学の学生諸君による「学習支援ボランティア活動報告！被災地視察研修企画への思い」では、夏休み期間中などに

行われた被災地の子どもたちへの学習支援活動、ならびに南相馬市や気仙沼市への視察研修を企画し、参加したことの体験報告があった。子どもたちに対するボランティア活動を通じて、参加した学生自身にも能力・指導技術に向上が見られ、自己成長にもつながっているとのことで、堂々と発表する学生諸君の姿勢からもそれを感じとることができた。

☆防災ウィークエンド大詰めの「鼎談：未来の仙台のまちづくりを目指して」では、河北新報社論説委員会副委員長の武田真一氏、仙台市まちづくり政策局まちづくり連携担当部長の柳津英敬氏、宮城教育大学教育復興支援センターの野澤令昭副センター長の3氏による鼎談が繰り広げられた。東日本大震災直後から今日に至るまで、3氏は地元メディア・東北最大の地方行政・東北唯一の教員養成大学という夫々の立場から深く防災・減災に関わってこられた訳で、震災から4年後に仙台で開催された第3回国連防災世界会議ではとりわけ重要な役割を果たされたことから、話題の中心がこの会議のことになったのは当然の成り行きであったと思われる。例えば、河北新報が震災半年後に行ったアンケートで、『防災記事が役に立たなかった』との回答が多かったことに衝撃を受けた河北新報はその反省から『いのちと地域を守る』キャンペーンを展開し、国連防災会議での報道シンポジウムにおいて見事に報道の役割検証を試みている。また仙台市の報告によれば、国連防災会議の本体会議へは187か国から6,500人が参加し、2015年から2030年に至る『仙台防災枠組み』を採択したこと、一般参加のプログラムでは400以上のシンポジウムと300を超える展示ブースが開かれ、本体会議の参加者を含めて延べ15万6千人もの参加が得られたとのことであった。注目したいのは、この国連防災会議が基点となって、産・学・官、報道機関、市民団体の協力による『みやぎ防災・減災円卓会議』が立ち上がり、今後に向けて震災の教訓を集約し共同で発信する態勢ができあがったことで、今後への期待は大きいものと思われる。

☆最後の閉会の挨拶では、3回目を迎えたこの公開講座の意義が再確認され、参加者に対する謝意が述べられた。これも新たな試みであったが、宮城教育大学アカペラサークルによる見事なハートモーニーと大勢の参加者の手拍子でクロージングセレモニーは幕となった。
(文責：瀬尾和大)

第3回公開集中講座 宮城教育大学
防災ウィークエンド
2015年9月12日(土)・13日(日)

学生も参加

第3回公開集中講座 宮城教育大学
防災ウィークエンド
2015年9月12日(土)・13日(日)

子どもたちに人気の科学実験



地元の漫才コンビ・ニードルも参加



熱演する講師たち



ポスター展示



学長挨拶



クロージングセレモニーはアカペラに手拍子で



副学長挨拶



避難に成功した南三陸町立戸倉小学校
(戸倉小学校元校長の麻生川敦氏の講演資料より)

戸倉小は最終的に屋上の水道タンクまで水没する。



同時期に開催された仙台ジャズフェスティバル





陸奥国分寺薬師堂



国分寺山門



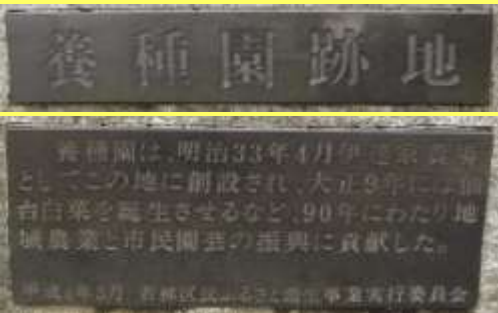
陸奥国分寺跡



仙台市若林界隈を歩く



ふるさと広場



【若林城跡】

南に目を転じると政宗の晩年の居城である若林城跡があり、その土塁を活かし現在は宮城刑務所となっています。



④ 若林城跡



仙台の植物



キンモクセイ



ノブドウ



クサギ



ヒガンバナ



オオバギボウシ



サワギキョウ



テイカカズラ



シモツケソウ



ミヤギノハギ



?????



リンドウ



サンゴジュ



ノコンギク



フウセンカズラ



カワラハハコ



ルコウソウ



ウバユリ